

1. 多灯分散照明

1.1 多灯分散照明とは

住宅の照明計画では、大きく分けて3つの照明方式が用いられます。一つの部屋の天井中央にシーリングライトを一灯設置する一室一灯照明と、一つの部屋に複数の照明器具を設置する一室多灯照明、そして多灯分散照明です。多灯分散照明についてはこれから詳しく紹介しますが、一室多灯照明に省エネルギーの考え方を付加した照明方式と捉えて頂くと分かりやすいです。

一室一灯照明に対して一室多灯照明は、生活行動やライフスタイルの変化に光環境を対応させやすいことは言うまでもないですが、照明器具の数を増やすということが消費電力量の増加につながるというイメージがあり、また単純にインシヤルコストが上がるという理由から広く普及することはありませんでした。しかし国土交通省において研究を進めるうちに、一室多灯にしていくつかの点に注意すれば実は省エネルギーになるということが分かってきました。その研究成果を多灯分散照明と呼んでいます。

ではどのようにすれば省エネルギーになるのでしょうか？

通常は高ワット数で高効率の器具を一灯だけ天井中央に設置する方法が最も省エネルギーになると考えられています。もちろん器具を高効率にすることは省エネルギーに直結し、それだけでも従来の住宅照明の消費電力量を30%程度削減できるという試算もあります。但しこの方法では、照明器具が一灯しかないために、光環境を変えることができません。このことは光環境の質を低くするだけでなく、実はエネルギーの浪費にもつながっていることが分かってきました。リビングルームを想像してみてください。一室一灯照明では寝る直前まで煌々（こうこう）と照明が点灯しています。しかし本当に部屋の隅々まで常に明るくしておく必要があるのでしょうか。ここで普段の生活における生活行動を考えてみると、家族で団らんする時は空間全体の明るさが必要ですが、テレビを見る時などは、天井照明はそれほど明るくする必要はないですし、一人で読書をする時などは手元だけの光の方が集中できる場合もあります。音楽を聴く時などはスタンドなどの低位置照明だけで空間を暗めにした方がリラックスできると思われれます。つまり複数